

Health Psychologist

日本健康心理学会

2019/11

号外 Ψ

ヘルス・サイコロジスト

速報 第五期理事長就任にあたって



田中共子（岡山大学社会文化科学研究科）

竹中晃二前理事長の後を引き継ぎ、第五期の日本健康心理学会の理事長（代表理事）に就任いたしました。これからの二年間、皆様と共に以下の課題に取り組み、健康心理学の発展と普及に努めてまいります。

まず本学会の基本骨格である、8つの常置委員会を軸として、活動の一層の充実を図っていきます。機関誌編集、研究推進、資格認定、研修、国際、広報、倫理、本明記念賞の各委員会は、研究活動を盛んにし、健康心理学という分野と成果を社会に発信する、一連の大事な流れを形作っています。

そのうえで、今期においては時代に応える活動に力を入れたいと考えます。近年の本学会では、国際化と社会化の流れを加速させています。国際化に関しては、機関誌名を英語に代え、アジア健康心理学会の集会を軌道に乗せ、国際的なネットワークを育てる努力を続けています。学術情報の受信のみならず発信の力を高め、アジアの健康心理学を世界に届けること、そして国内のみならず海外との往来も視野に入れて、国際的流動性の中の健康心理学を考えることを見据え、国際化時代の要請に応えていきたいと思えます。

社会化に関しては、健康心理学の社会発信や社会貢献へのルートをより太くしたいと考えています。心理学の国家資格が誕生した今、健康心理学は現場の実践でどう役立ち、社会にどう貢献できるのかが問われています。心理、医療、福祉など様々な専門家が所属する本学会は、健康への関心を共有する学際的コミュニティです。健康心理学を役立てる機会が、広く潜在していると考えられます。そこで健康

心理学の発想と知識と技術を、目に見える形で広く社会に届けていく必要があります。新たな出版計画などを構想していますので、どうかご協力をお願いいたします。

なお「健康心理士」の資格と「健康心理士会」をどう活かすは、健康心理学の現実的な可能性を形にしていくことに繋がっていくと考えています。今期には、健康心理士会の学会下部組織化という計画が動き出します。この会の立ち上げにあたられた草創期の役員の方々、有資格者を輩出しこの会を支えて頂いた教育関係者の方々、毎年資格認定の実務を担ってくださった方々に感謝しつつ、次の一步を紡ぎ出していければと思います。

本学会は一般社団法人という、非営利の学術活動の団体ですが、資産や予算・決算の状況を見ると財務的には健全で、活動に注力できる状態と思われれます。これまで運営にあたられた皆様のご尽力の賜と感謝しながら、引き続き着実な運営に努めてまいります。

学会活動を創っていくのは、会員である我々自身です。その熱意と意欲を傾けるに値する学会という場を、皆様と力を合わせ、心を込めて作り上げていきたいと考えています。どうぞよろしくをお願いいたします。

経歴 1960年東京生まれ。筑波大学第二学群生物学類卒。筑波大学、広島大学、ワシントン大学の大学院で学び、早稲田大学にて博士（人間科学）。広島大学助手、岡山大学助教授を経て、同教授。

趣味・嗜好 家族レジャー、ちまちまとしたもの作り、写真、スキー、動物好き